

岡田慎一郎, 上村忠正, 永井絢也, 長谷川真人, 村上京子, 守澤幸晃 著
理学療法 臨床実習サポートブック
—レポート作成に役立つ素材データ付
藤井 顕 (藤リハビリテーション学院副学院長)

私はこの本を、理学療法士を養成する学校の立場で読んだ。

理学療法士養成課程では、総単位の2割前後を臨床実習が占めている。学生は実習地において3~4週間の短期実習、8~10週間の長期実習に臨み、評価または治療を中心にさまざまな形で臨床実習を展開する。

本書は、理学療法士をめざす学生のガイドブックとして、臨床実習をフルにサポートする内容である。著者たちが臨床実習で苦労した自分たち自身の経験を踏まえて、「学生のときにこれが欲しかった」と思うあらゆる情報やアドバイスを網羅している。

どのような内容なのか、いくつか例を挙げよう。

実習には荷物として何をどれだけ準備し、持っていけばよいかということは学校でもオリエンテーションを行うが、この本ではそれがさらに学生目線で一段深く生活に根ざしてアドバイスされており、イラストも使っているので学生はリアルにイメージできるだろう。

また、「実習指導者への電話のかけ方フローチャート」や「お礼状の書き方」もサンプル付きで紹介されている。学校のカリキュラムではこうしたことの指導まではとても手が回らない状況があるので、社会的対応に不慣れな学生には一つのサンプルとして示す価値があるだろう。

「デイリーノート」「デイリーアクションシート」「症例レポート」の実例が掲載されているが、この本には要所要所に、その作成者ならではの“生のコメント”が挟み込まれている。それにより学生は、実

習指導者からどのような指導があったのか、またどのように考えて切り抜けたのか、という裏話を知ることができる。こういったエピソードは学生が実際に難局を切り抜けようという場面で助けになるだろう。

また、レポート作成に便利な動作図・反射図のデータがWebからダウンロードできる付録が付いている点も注目される。この付録を使いこなすことができれば省力化と時間の節約になるのではないかと思う。これは本書の冒頭で著者が書くように、実習というのは書き物ばかりに集中するのではなく、患者さんと向き合い、リハビリテーションを考察しつつ、実際に動く体験をするためのもの、という考えに基づく付録だと理解する。

最終章では、先輩から後輩へのアドバイスとして、コミュニケーションのこつ・お悩みQ&A、また就職先として、理学療法士の資格を取った後、病院・その他多方面で活躍する著者らの活動の場が紹介されている。

この本を最後まで読み終えて、私が感じたのは“学生が納得できる実習を経験できるように”との著者らの切なる願いだった。マンガも使っているが、この本は一見すると軽い本に思えるかもしれないが、読み進めてみれば、学生を相当实际的に助けるであろう内容の濃い一冊だとわかる。理学療法士の本は高額なものが多くなか、抑えた値段設定も学生には嬉しいはずだ。

(B5・頁224 2015年11月 定価本体3,000円+税 [ISBN978-4-260-02413-6] 医学書院刊)